

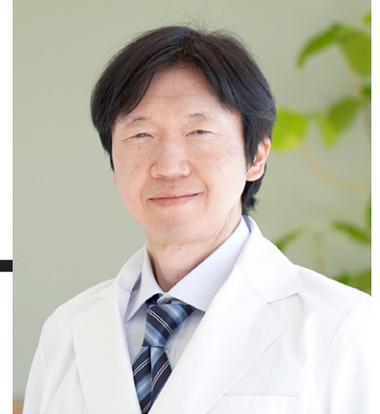
2024 November

322号



はるあもりほい

●社会医療法人創和会広報誌はあもりにい / 発行 理事長 重井文博
令和6年 11月 1日発行



しげい腎クリニック早島開院

しげい腎クリニック早島 院長 松原 龍也

およそ1年前の2023年10月23日にしげい腎クリニック早島の地鎮祭が厳かに執り行われました。その後、工事は順調に進み、計画より10日程早い2024年8月20日に竣工を迎えました。順次、什器や備品を搬入し、10月7日に無事開院することができました。準備やリハーサルなどを十分に行っても、好事魔多しと言われるように一抹の不安は残るもので、初日は14名、翌日は9名の方が受診され、無事治療を終えた時にやっと、一息つくことができました。

開院を迎えるにあたり、創和会の理念である“生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に”の後半にフォーカスし、しげい腎クリニック早島のスローガンをエンジョイ透析ライフ（透析しながら自分の時間を楽しもう）としました。当クリニックの特徴を一目で把握でき、かつ印象に残りやすいフレーズとしてパンフレットやホームページにも載せています。

末期腎不全に陥ったとしても深刻な余病がなく、適切な透析医療を受けていれば、食事や治療時間などの制約以外は健康な人たちとほぼ遜色のない生活を送ることも可能です。即ち、適正な透析を受け健康な人と同じように人生を楽しみましょうというメッセージを込めました。まずは自分たちからと、当クリニックのスタッフは皆 enjoy my life を実践しながら診療に当たってい

ます。スタッフ総勢12名と少人数であり、手が回らないことも多々あります。そこは受援力を駆使し、皆さんの力を借りながら、患者数を増やしていきたいと思っておりますので、ご協力の程お願いいたします。



開院特集

社会医療法人 創和会

しげい腎クリニック早島

幸町記念病院の林・矢吹が
クリニックを
取材させていただきました！



▲クリニック外観

クリニック周辺の田園風景に溶け込む木目調の軒天が印象的な建物。異素材の外壁と丸窓がとってもお洒落な外観です。一見するとクリニックには見えない建物で、外観の美しさに明るくポジティブな気持ちで通院できそう。



▲診察室

い草・い製品の町として発展してきた早島町。歴史ある地でのクリニック開院だからこそ、イメージカラーはイグサカラーのグリーン。診察室は綺麗なグリーンカラーで揃えられていました。



▲エントランスロビー

ロビーの椅子は独立して座ることができ、座席の幅が広く手荷物を側面におけるのが嬉しいポイント。しっかりとした背もたれもあり、座り心地抜群！



用水路

▲自然保護活動

クリニックを囲む用水路には微生物やコケ等生き物が住み着きやすい多孔質溶岩パネルを壁面に設置。石張風により景観も美しく、水辺の生態系保全にも配慮されているとことで素晴らしい取り組みです。

透 析 室



▲透析スペース

1フロア 30床の透析室は人目を気にせず透析ができる半個室タイプ。ウッド調の床や建具でとても落ち着いた空間。仕切りのデザインが半透明になっていることで、実際にベッド上で過ごしてみても閉塞感や圧迫感はありませんでした。採用されているベッドは幅がゆったりサイズで寝心地が良く、座位でも楽に座ることが出来る仕様で長時間の透析でもリラックスできます。

測定結果を
都度印字！



◀透析室体重計

リライト式の透析条件カードを採用した体重計。個人情報や透析条件がカードに印字され、患者さんが携帯することで救急搬送された際や万一の災害時にも透析情報の伝達が可能になるそうです。



◀照明と空調システム

透析室の照明は間接照明になっており、患者さんは透析中に眩しさを感じることなく快適に治療が受けられます。また、空調設備は風を感じにくい空調システムにより部屋全体の温度を管理。



◀フットケア室

患者さんのフットケアを行う専用の部屋を完備。こちらでは爪切りや足浴、処置をする予定。削った爪や角質を吸い込む装置も備え付けてあり、感染対策もばっちり！



松田マネジャーに
クリニックへの思いを
お伺いしました。



松田マネジャー

Q. クリニック開院において重要視されたところはどこですか？

今回の開院に向けて“環境を整える”ことを重点的に考えました。誰しも病院とクリニックを比べた時に、診療科が多く24時間診察可能である点、感染対策や安心・安全の観点からも、病院の良さの方が先に見えてくる気がします。そこで、病院とクリニックの差別化を考えた時に、クリニックは少人数の患者さんを対象にしているからこそ、個々に寄り添った透析環境を提供することができる良さがあると考え、透析時間、透析中の環境（透析ベッド、各種設備）など、患者さんの生活を中心に考えた快適に過ごすことができる透析環境を整えました。今後も選んでいただけるクリニックになるために、患者さんのニーズを捉えて様々な取り組みをしていくことが必要だと思っています。

Q. しがい病院、附属病院から転院されてくる患者さんのサポート体制を教えてください。

今まで病院で透析をしてこられた患者さんは、クリニックへの転院でたくさんの不安を感じられると思います。薬剤師・管理栄養士・理学療法士などのコメディカルが居て当たり前、設備の面においても検査・治療がすぐできて当たり前、様々な場面の当たり前だったことが当たり前ではなくなります。しがい腎クリニック早島ではコメディカルの方々を創和会グループ病院から派遣してもらい、シャント管理や定期検査は創和会グループ病院へ検査を委託します。患者サービスを充実させることで患者さんの不安をカバーし、患者さん一人ひとりに対してきちんと説明をし、ご理解を得ながら丁寧に進んでいきたいと思っています。

Q. 最後に、今後どのようなクリニックにしていきたいですか？

透析患者さんはどうしても透析中心の生活になってしまいます。しかし、当院に通う患者さんには透析中心だけど透析だけでない、趣味や生活を大事にして、それぞれの人生をきちんと楽しんでいただけるようなクリニックにしていきたいです。

まさに、スローガンの「エンジョイ透析ライフ」が実現できる、患者さんも職員も安心かつ快適に過ごすことができる魅力溢れるクリニックでした。

感染対策



感染対策用の玄関



PPE 着脱ゾーン



感染対策専用の診察室



感染個室

▲感染対策

正面玄関の東側には感染対策のための別玄関がありました。一般の患者さんと感染対策を要する患者さんの動線分離がなされています。別玄関からは専用の診察室、トイレ、専用個室へと繋がっています。職員がガウンや手袋等の個人用防護具を着用するための部屋も診察室手前に準備されており、コロナを経験したからこそその設計が随所に垣間見えました。

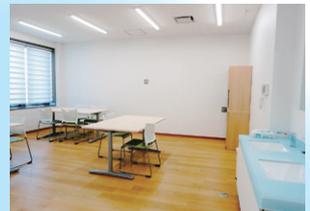
2階スペース

2階スペースは職員エリアと患者さん・業者さんエリアとが明確に分かれており、職員カードをかざす出入り箇所も多くセキュリティが強化されています！職員ロッカー横には専用シャワールームも完備。職員思いの設計もとても魅力的でした。



▲多目的室

四角窓が印象的な明るく広々とした多目的室。今は研修や会議に使用されているそうですが、今後は地域の住民の方々や医療・介護職の皆さんとこちらで一緒にできることがあればと考えられています。



▲職員スペース

職員の休憩スペースは明るく広々としており心身を休めリフレッシュできる居心地のいい空間。

はあもにい倉敷に岡山県立大学 保健福祉学部看護学科の 実習生が来られました

はあもにい倉敷 支配人 立川 真也

今年も岡山県立大学保健福祉学部看護学科の1年生3名が「地域生活支援基盤実習」に来られました。この実習では、看護ケアの対象者となる人々が地域ではどのような場で生活されているかについて学び、自分らしく生活するために必要な支援について考察できることを目的とされています。

実習中は、デイサービスで看護師の仕事内容を学びながら一緒に作業や体操をしたり、カルチャーとフィットネス講座ではヨガ、コグニサイズ、吹き矢等を受講者の皆さんと一緒に体験されました。

感想を伺ったところ、「実習を通じて、地域には様々な人が色々な価値観や状態を持って生活されており、どこかで『看護』が必要となって出会ったとしても、その人がもつ生活背景や価値観等を踏まえて共に歩むことについて理解することができた」と言われていました。今後も看護師を目指して頑張りたいです。これからも応援しています。



▲いきいき健康教室



▲学生さんと利用者さん



▲一緒に体操

倉敷市一斉地震対応訓練を実施

しげい病院 医療支援部 総務課 比津 守弘

9月26日(木)にしげい病院の各部署が倉敷市一斉地震対応訓練に参加しました。

「自分自身の安全は自分で守る」ことを身につけ、災害があっても「ケガ」をしないことを基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の強化を目的に実施されました。

9:00の訓練開始の合図をうけ、姿勢を低くし机の下に隠れるなど、それぞれの持ち場で訓練に参加し、実際の地震発生時の基本行動を改めて認識しなおす良い機会となりました。

また、プラスワン訓練として、災害対策本部立ち上げ訓練と安否確認システムにて職員に一斉メールを送信しました。

災害対策本部立ち上げ訓練を通じて、使用する備品のバッテリーが切れていた等、様々な課題が浮き彫りになりました。具体的な運営方法をマニュアルとして全員で共有し、定期的・継続的な訓練の実施を通してブラッシュアップしていくことで、ソフト・ハード両面から災害に備えていく必要性を痛感しました。



▲災害対策本部立ち上げ訓練



▲合図をうけ、各自速やかに身を守る行動に移ります

消火技術訓練大会に出場しました

■重井医学研究所附属病院チーム ～見事優勝！～

重井医学研究所附属病院 看護部 田中 凜
重井医学研究所附属病院 看護部 田中 美鈴

第43回消火技術訓練大会が9月25日（水）に岡山市消防教育訓練センターで開催され、消火器女子の部で出場しました。

約3週間、本番に向けて院内立体駐車場や現地での練習を行いました。暑い中消火器を持って本番を想定した練習を行い、普段扱う機会が少ない消火器の持ち方や使用方法を学びました。また、事務部の小笠原監督より規律を学び、現地では消防士の方から動作を速くするコツを教えていただき、日を重ねる毎に自分たちの自信に繋がっていききました。

本番ではたくさんの事業所が集まり、多くの人を前に競技し緊張しましたがミスすることなく1番良い動きをすることができました。今まで訓練してきた成果を発揮することができ、優勝を勝ち取りました。

今大会への出場に理解を示していただいた院

長、事務部長、看護部長、所属長、ご指導いただいた小笠原監督、業務を抜けた際にフォローしてくださった先輩方、迷惑をかけてしまうことありましたがたくさんの方々が応援してくださり、とてもいい経験になりました。

いつ災害が起きてもおかしくないと言われていたこのご時世ですが、いざという時に率先して行動し患者さんや職員の皆さんを助けられるように今回学んだことを活かしていきたいです。



▲大会の様子

■しげい病院チーム ～練習の成果を出し切りました！～

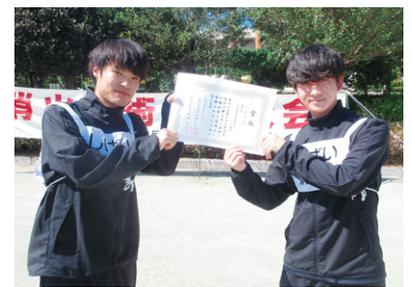
しげい病院 医療支援部 長綱 将也
しげい病院 リハビリテーション部 長野 翔

9月26日（木）に、第36回消火技術訓練大会が倉敷スポーツ公園イベント広場にて開催されました。この訓練大会は、消火器の基本的な取り扱いと、実際に火事起きた時の通報から初期消火完了までの流れを競うものです。

選手は指揮者と1番員の2人1組となり、指揮者が通報、1番員が火災現場の発見、伝達と初期消火をするという役割で分かれています。

本番に向けて8月末から練習が始まりました。初日はミスも多く、本番までに全部調整できるかどうか不安でしたが、練習の度にだめだったとこ

ろを医療支援部吉田係長と選手の3人で話し合い改善していくことで、タイムも少しずつ伸び細かいミスも減らしていくことができました。



本番では緊張しながらも、自分たちの全力を出すことができました。結果は思ったようにはいきませんでしたでしたが、今回の訓練大会で消火器の正しい使い方や防火への意識を高めることができました。

練習では様々な病院の職員の方と話す機会があり、とても貴重な経験になりました。

最後に、今大会に参加させてくださった事務部長をはじめ監督の吉田係長、練習で不在の間支えてくださった先輩方、熱心に指導してくださった倉敷消防署の皆さまに心から感謝いたします。



▲大会の様子

グリーンライトアッププロジェクト岡山

岡山県臓器バンク 理事長
幸町記念病院 院長 田中 信一郎

今回は兼任しています岡山県臓器バンク理事長としてご案内させていただきます。創和会、三祥会の病院がグリーンにライトアップされているのをご覧になり不思議に思われたのでは、そして、「グリーンライトアップ」と聞くとどんな催しの企画なの？と首をかしげる方が多いのではないのでしょうか。

毎年10月は全国的に臓器移植普及推進月間として様々なイベントが行われています。臓器移植推進のシンボルカラーが“グリーン”とされており、国民の皆様に臓器移植について理解を深めていただくため、グリーンリボンピンバッジの配布や種々の催しが展開されています。その事業の一つに「グリーンライトアッププロジェクト」が

あり、岡山県でもご賛同くださった施設でライトアップが行われています。本年度は重井文博理事長のご理解を賜り、創和会グループおよび三祥会の三病院が倉敷中央病院、津山中央病院と共にライトアップに参加いただきました。今回のドナー（提供者）に関わる医療機関とレシピエント（移植者）に関わる医療機関の双方の参加は、大変意味深いものと感謝しています。

近年では、末期腎不全の患者さんに「腎代替療法」の説明が診療報酬制度に定められ、透析療法と同等に腎移植療法を提示する時代になって参りました。これらの治療法が適切に選択され患者さんのQOLの向上に資することを願っております。

しげい病院



重井医学研究所
附属病院



幸町記念病院



重井医学研究所附属病院 新ユニフォームで気分一新

看護師



新制服はストレッチ素材で、両脇は通気性のよい素材を使用しています。

かがんでも胸元が見えないVネックのラインと、動きやすいスリットにこだわりました。

色はオレンジ（ピンクと言われますが、オレンジ）です。ジェンダーレスの概念を取り入れ、男女かわらず着用できるユニフォームを目指しました。オレンジだけが主役にならないよう、胸にブラウンのラインを入れています。ちなみにオレンジは韓国の医療ドラマから影響を受けています！

（産賀 知子）

セラピスト

9月よりユニフォームを変更してもらいました。上衣が白、ズボンがネイビーのベース色は従来のままですが、今までの制服と比較してストレッチ性、通気性、肌触りに優れています。すっきりしたVネックにポケットの縁取りがアクセントになっており、丈長のシルエットがスタイル良く見せてくれます。スタッフ一同、気分一新で業務に励んでいます。

（松久保 稔）



臨床工学技士

約10年ぶりの制服更新となりました。

カタログ3冊を見ながら、スタッフ約50名がいろいろ意見をかわし「この色が好き」「このデザインがいい」。

決まるのであろうか……と少し不安も感じつつ6パターンを選びみんなでお気に入りの一着を投票しました。

上衣は癒やしを与えるアースカラーを取り入れ、ズボンは念願の紺色に変わりました。

気持ちも新たに頑張っています。

（久保 裕子）

診療放射線技師



4月から新人の入職が決まり、今までのユニフォームが廃版とのことで、新調へ動き出しました。上衣は着たい色、測定バッジが付けられるデザインで探し、部内投票でカーキ色に決まりました。ズボンは全員一致でブラックとなり、選択肢が少ない中で、生地感の良さとサイドにポケットが付いたデザインを選びました。落ち着いた色味が、放射線部の雰囲気合っていると信じて、モチベーション高く日々業務に励んでいます。

（山田 玲奈）

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「秋暮れる頃の花実を楽しむ」

日時：11月17日（日）

10：00～12：00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●よい香りを漂わせる花たちの中でも特に香りの強い「沈丁花（ジンショウゲ）」「梔子（クチナシ）」「金木犀（キンモクセイ）」の3つは『三大香木』と呼ばれています。春は沈丁花、夏は梔子、秋は金木犀と咲く時期が違うので、それぞれの季節の到来を花の香りが告げてくれます。金木犀の香りは、遠くまで届くことから、古くは「千里香」と呼ばれていたそうです。香りが漂ってくると、いよいよ秋本番と感じます。また、学校帰りにどこからともなく漂ってきたこの香りを思い出し、どこか懐かしい気持ちにもさせてくれます。地球温暖化の影響により、気温の上昇や台風の接近の多さで、日本の秋がなくなった、短くなったと感じる人が増加しています。この短い秋を大切に「読書の秋」や「食欲の秋」「芸術の秋」などおもいっきり楽しみたいと思いました。（MY）

●我が家のミニトマトの枝に、カメムシがびっしりとたかっていました。彼らには悪気は無いのだろうけど、これは断じて許さん。そこで、一匹ずつ手でつまんでガムテープにペタペタと貼り付け、さらに上からガムテープでおおい、サンドイッチ状にして捨てました。ところが翌日驚いたことに、何匹も粘着地獄から自力で抜け出し、捨てたゴミ箱の周りを悠々と闊歩しておりました。針金のような細い足のどこにあんな力があるのでしょうか。すごいぞカメムシ！と感心している場合ではありません。もう一つ驚いたことがありまして、それはカメムシの匂いが全く気にならない。正確に言うと私はカメムシの匂いがわからないということがわかりました。あれだけ大量につまんだけど、全く匂いは感じませんでした。自分自身の体臭は、わかりにくいといわれています。周りの皆さまどうがお許しください。（IS）

岡山県病院協会 優良職員表彰おめでとうございます

今年の岡山県病院協会 優良職員表彰は、
創和会からは以下の7名の方が受賞されました。



社会医療法人 創和会グループ

WEB版はこちら。
バックナンバーもご覧ください。→



- しげい病院
- 重井医学研究所附属病院
- しげい腎クリニック早島
- 医療法人 三祥会 幸町記念病院

- 倉敷しげい訪問看護ステーション
- 倉敷しげい居宅介護支援事業所
- 岡山しげい訪問看護ステーション
- 岡山しげい居宅介護支援事業所

- 重井医学研究所
- 健康増進施設 はあもにい倉敷
- 重井薬用植物園
- 倉敷昆虫館